

## 第 56 回 関東甲信越静社会教育研究大会 神奈川大会 参加報告

新潟市社会教育委員（長谷川 雅朗）

- 1 期 日 令和7年11月20日（木）～21日（金）
- 2 会 場 関内ホール（横浜市中区住吉町）
- 3 大会スローガン 「社会教育で創る 育む つなげる 共生の未来へ」
- 4 研究主題 「すべてのひとが学び続けられる社会をつくるために社会教育ができること」
- 5 主催／共催  
一般社団法人全国社会教育委員連合、関東甲信越静社会教育委員連絡協議会、  
第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会実行委員会、  
神奈川県社会教育委員連絡協議会、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会

## 6 研究大会概要

## ● 1日目 全体会

◎記念講演 テーマ：「誰もが自分らしく生きることができる社会をめざして」  
認定NPO法人スローレーベル 栗栖 良依氏

大学でアートマネジメントを学び、イタリアの大学院でビジネスデザインの博士号を取得。日常の中の非日常をテーマに異なる分野の人やコミュニティをつなげ対話や協働のプロセスで社会変革を試みる市民参加型のアートプロジェクトを各地で手掛けており、主に山間部や過疎地域の地域住民たちと一緒に作品を作っていた。

自身の病気をきっかけに福祉の世界と出会いSLOW LABELを立ち上げる。障害のある人と一般市民とプロが一緒になって舞台を作り上げる時に壁にぶつかる、障害のある方は公演だけではなくその前の打ち合わせや練習などへの参加が様々なバリア（移動手段や心理的なもの等）によって出づらくて人数が集まらない。そこで舞台やイベント制作におけるアクセシビリティの仕組みを開発し表現者として舞台に立ちたいと願う誰もが障害を理由にあきらめなくてすむ環境を作る。  
東京パラリンピック開閉会式での舞台製作の苦勞（障害のある方と健常者と区別なく偏りがなく演出を考えたり等）をお話された。

## ◎ シンポジウム

テーマ：すべてのひとが学び続けられる社会をつくるために社会教育ができること

お題：1. すべてのひとが学び続けられる社会とは

2. 学び続けられることが難しい状況にある人々へのアプローチ
3. 難しい状況にある人々をとりまく周囲の人々へのアプローチ
4. 「すべてのひとが学び続けられる社会をつくる」のは誰か

コーディネーター 青山学院大学 教授 伊藤 真木子氏

厚木市立森の里公民館 前地区館長 青木 信二氏

自治会長や各育成団体に所属。社会教育委員時代に「地域ぐるみ家庭教育支援事業」を提言  
地域と学校で創りあげる地域学校協働活動で「ともに楽しみ、ともに学び、ともに育つ」地域づ  
くりをおこなっている。

地域学校共同活動を上手く行っていくためには地域の活動を題材に授業に取り込んだり、授業の  
補助員を上手く活用することが重要。そのためには活動の魅力を地域や学校とくに教師の皆さん  
に知ってもらうことが必要。

地域の方々と知り合った子どもたちが大人になった時、今度は自分が学校と関わって行く。する  
と循環型の地域づくりができる。また、関わった地域の方々も学びにつながる。

社会教育はつながりをつくる教育である。日々、様々な立場の方々とながら話し合いをする  
ことによって多様性を理解していくことが社会教育で大切なところであると思う。

東京都台東区教育委員会 社会指導主事 阪本 陽子氏

社会教育の現状⇒社会教育専門職員の不足、学習をとりまく環境の変化により地域住民の社会教  
育に関する意識の低下

社会教育専門職員の育成が必要。

多文化共生に関する学習に取り組んでいる。

在住外国人と上手く共生していくための学びが必要。「多文化を活かせる地域づくり」「多文化で  
つくる地域コミュニティ」「多文化共生のための市民リテラシー」に取り組んだ。

その中で外国人住民と地域住民と一緒に防災まちづくりを実施。

外国人だけを教育するのではなく地域住民も参加して一緒に学んでいくことが重要。

(一社) 視覚聴覚障害アドボカシー研究所マイノリティリサーチセンター研究員  
相模原市社会教育委員 渡邊 健一氏

生まれた時から強度弱視、30年前より全盲。

対面翻訳のグループに係わる。翻訳者の方が表現方法などの相談をする。

図書館の運営では障害者や来館できない方へ利用しやすくするための読書バリアフリーに取り組  
んでいる。

市民の皆さんにバリアフリー図書を体験してもらうイベントを図書館と共催で開催。

3Dプリンターで作った立体的な地図など視覚障害の当事者はもちろん、様々な方から新しい技や  
方法を知ってもらうことで、情報を共有しながらつながりを作っていく活動をしている。

## ● 2日目 分科会

### 第1分科会 地域の教育力の再生と社会教育委員の役割

研究テーマ 地域の教育力の低下が指摘される中、地域の教育力を再生していかなければならない。その再生にむけた社会教育委員の役割について考える。

#### ◎事例発表

##### ① 星ヶ塔黒曜石原産地遺跡を題材にした学び

～紙芝居を作った私たちの物語～ （長野県下諏訪町）

地域に誇りを育む学びを進めるために地元の遺跡を題材にした紙芝居を社会教育委員で手作業で作成。

作品は学校や地域イベントで上演。Y o u T u b eでの公開にも挑戦し声の吹込み、効果音、編集も自分たちで行った。

委員同士の協働を通して「学び合い」や「創り出す楽しさ」といった社会教育の本質を実感する事が出来た。ゼロから1つの作品を作り上げるという体験そのものが、地域教育の新たな可能性を示してくれたと感じている。

完成した紙芝居を今後どのように活用し、語り継いでいくかが課題。

##### ② 子どもと大人が共に育つ社会の構築を目指して （神奈川県海老名市）

海老名市の社会教育は子どもを中心とした形をとることで、学校教育と社会教育の両面から子どもたちの健全育成を支援してきている。

多くの社会教育団体と連携して子どもたちへ体験活動の機会を提供している。

#### ◎主な活動

##### ・「えびなっ子ふれあいフェスタ」

親子で社会教育活動を体験する機会の提供や団体の活動披露の場として開催している。

自分の好きなこと、得意なこと、やってみたいことなどを社会教育の中から選び、自分の生き方につなげて行くことが目的

##### ・「えびなっ子いきいきシンポジウム」

テーマに沿って意見交換することによってそこから生まれる「気づき」を活動の充実につなげるとともに団体間の交流を図ることを目的として開催している。

教育長、子ども、指導者とのトークセッションまた、グループ交流では高校生、大学生も参加して多世代での意見交換もしている。

社会教育委員が事業計画立案だけでなく、活動に主体的に参加することにより、会議での議論も活発になり、それぞれのつながりをいかし、社会教育委員の主体性が生まれた。活動することが、子どもを中心とした大人同士のつながりづくりや団体の活動の活発化につながっている。

協力してくれる団体が固定化しつつある。多くの団体に参画してもらう工夫が必要。

## 7 感想

初めてこのような研究大会に参加させていただきましたが、他の自治体の社会教育委員がどのような活動をされているのか参考になるいい機会であると感じました。

また、発表者のみなさんのお話を聞くと共通することは、子どもを中心に地域や学校、行政、社会教育団体等が協力し合い、子どもも大人も共に学びながら子どもたちの健全育成を推進する活動をおこなっていることがわかりました。

私も、自分の経験やつながりを生かして何ができるかを改めて考え今後の社会教育活動に生かしてけるように頑張っていきたいと考えます。

参加させていただきありがとうございました。